

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

口腔扁平苔癬全国調査に基づいた病態解析および診断基準・治療指針の提案

日本口腔内科学会および日本臨床口腔病理学会共同事業、口腔扁平苔癬ワーキンググループ (OLP 委員会) (委員長: 小宮山一雄)

日本口腔内科学会誌 第 21 巻 第 2 号、2015 年 12 月発行

Minds 掲載 無

■1 黄連湯、半夏瀉心湯、茵陳蒿湯、十全大補湯、補中益氣湯

疾患:

口腔扁平苔癬

有効性に関する記載ないしその要約:

治療の中の全身療法の項に、下記の記載がある。

『漢方薬: 漢方薬を口腔疾患に用いる場合は、あまり器質的変化のない口腔不定愁訴などに有効なことが多いとされている。診断では問診、問診、望診などや陰陽、虚実、寒熱、表裏、その他の証を判断して漢方薬を選択するのが原則である。

口腔扁平苔癬に対し使用する場合も、効能効果に口内炎の表示が含まれている黄連湯、半夏瀉心湯、茵陳蒿湯や、免疫能を調整し体力低下を改善する十全大補湯、補中益氣湯などを患者の証に応じて選択する。』

備考:

治療アルゴリズムの中に、全身療法として「漢方薬」の記載がある。